

「確かな学力」を育てる学習活動の工夫 — ICTの効果的な活用を通して —

I 研究の内容

1 研究内容

(1) 授業づくり

ア 児童の実態の把握

- ・NRT や学力診断テストの結果，Q-Uなどを活用して各学年の児童の実態把握をし，学級集団づくり，学習指導，研究に生かすために課題や手だてについて検討する。

イ 理論研究

- ・全体研究で，研究の基本方針の検討決定を行う。
- ・講師を招いての理論研究を行う。

ウ 研究授業

- ・ICTを活用した授業研究を行う。

(2) 学習基盤づくり

ア 学習規律・習慣の確立

- ・Q-Uの結果については，全校を一集団ととらえ，学校づくりに生かす。
- ・「玉宮小学習の約束」や「表現力アップ」など，学習基盤の検討・取り組みを行う。
- ・家庭学習について全校で方向を確認し，取り組みを進めていく。
- ・朝学習の時間の有効な活用について研究する。

2 研究実践

(1) 学習会

- ・「ICTを活用した授業づくり」

山梨県総合教育センター 主幹・指導主事 中村 英彦先生
主幹・指導主事 清水規与美先生

- ・「学級づくりについて」 甲州市スクールカウンセラー 長尾 雅裕先生

(2) 研究授業

- ・第6学年 理科「てこのはたらき」 古屋 岳治教諭
指導・助言 山梨県教育委員会 義務教育課 指導主事 一瀬 邦彦先生

(3) 実践授業

- ・第1学年 生活科「いろやかたちたくさんみつけた」 田邊真由美教諭
- ・第2学年 算数科「新しい計算を考えよう」 海野 朱美教諭

- ・第3学年 算数科「考える力をのぼそう 全体と部分に目をつけて」
田中 美穂教諭
- ・第5学年 総合「地域の文化や自然を調べて発表し合い、
地域に対する愛着を深めよう」山本 諭教諭
- ・たけのこ学級 算数科「どちらがひろい」
岡 正人教諭

II 成果と課題

1 成果

- ・ICT を活用した授業が日常的に行われている。多様な活用がある中、教師間の情報交換ができていたことがよかった。
- ・ICT の活用や実態調査など研究したことが日常の実践に結び付き、児童の意欲や思考力等において向上が見られた。
- ・iPad や edutab のルールや操作が身に付き、ルールに従って、授業の中で発達段階に応じた活用がスムーズにできている。
- ・ノート記述に合わせて、iPad を使った edutab などの交流を通して、自分の答えや考えを書く活動への抵抗感が減り、考えて書くこともスムーズにできるようになってきている。また、抵抗感なく書けることにより、書く内容の質も向上している。
- ・edutab 上で、自分の考えと友達の考えを比較し、色を使って、共通点や相違点を視覚的に捉えられるようになった。
- ・edutab を活用することで、マグネットシート等を貼るスペースが必要なくなり、児童の意見の共通点や相違点をまとめて書くなど、板書をわかりやすく構造的にまとめられるようになった。
- ・見つけたもの、実験の結果を撮影しておくことで、次時の導入や画像を使ったわかりやすい児童の発表、かけ算見つけなどの授業への活用など、授業の幅が広がった。

2 課題

- ・少人数が進むと、ただ単に大画面 TV に映すだけでは、実物を目の前で見せることに対する優位性が感じられなくなってしまう。研究を進めさらなる工夫や方法を確立させたい。
- ・中には、文にまとめたり、発表したりすることにまだ抵抗感や苦手意識を感じている児童もいるので、更に実践方法の改善を図っていく必要がある。
- ・授業の中で iPad や edutab が使えるようになってきているので、学力の定着と向上に結びつけるための効果的な活用方法を模索していく必要がある。

III 成果物

- ・研究授業、授業実践の学習指導案及び資料
- ・「めあて」「まとめ」提示カード

(研究主任 海野 朱美)